

県総文発表会で優秀賞

東雲高校 自然科学部 外来生物駆除活動など報告

篠山東雲高校自然科学部の5人がこのほど、神戸市で開かれた「第49回県高校総合文化祭―自然科学部門発表会（第17回）」のポスター発表部門で次点の優秀賞に輝いた。発表テーマは、2020年から実施している篠山城堀のウシガエルなどの外来生物の駆除活動を通じて分かったことをまとめた「篠山城堀の外来生物駆除活動」と、野鳥と水生生物、哺乳類の調査を行った結果から、ささやまの森公園（川原）の自然環境について考察した「ささやまの森公園の生物調査」の2本。県内高校の自然科学部系部活動約60団体が参加し、17校に与えられた栄誉に喜びをかみしめている。

分かりやすいと説得力・写真を多用するなど工夫。ポスターをそれぞれ1枚をアップさせようと表を凝らしたA0サイズの「作製し、発表した」。



文の自然科学部門発表会ポスター発表部門で優秀賞を受賞した東雲高校自然科学部の部員たち＝丹波篠山市福住で

「篠山城堀の外来生物駆除活動」のポスターによると、駆除活動は19年6月、同堀に生息するウシガエルの鳴き声による騒音被害を聞き付けたことから始まった。部員らは定期的に駆除活動を行い、今年9月末までに東馬堀で特定外来生物のウシガエル、ブルーギル、条件付特定外来生物のアメリカザリガニを計1万7679匹、南馬堀で3392匹を捕獲したことを報告している。これらの活動により、アメリカザリガニやブルーギルの個体数は順調に減少し、ウシガエルの成体の数も減らすことに成功。しかし、今年7月の調査で、設置網約5

量となった。

このことについて、アメリカザリガニが減ると、それを餌としていたウシガエルの成体も減少するが、ウシガエルの卵はアメリカザリガニやブルーギルに食べられずに生き残ったため、幼生が増加したのでは、と考察。アメリカザリガニは魚類の卵も食べていたので、在来種のモツゴが増え、一方でブルーギルも再び増えたことから、「アメリカザリガニが堀の生態系に最も影響を与えている生物であると考えられる」と報告した。

部長（3年、狭間中出身）は、「先輩たちから受け継いできた活動を評価してもらえてうれしい」と喜び、「部員数が8人から5人に減って大変だが、活動をやめしまうと、再び外来生物の多い、もとの環境に戻ってしまうので後輩たちにもこの活動を続けてほしい」としている。

「ささやまの森公園の生物調査」のポスターでは、昨年度から実施してきた園内の鳥類、水生生物の調査に加え、今年度から新たに取り組んでい

2025年12月14日
丹波新聞

る哺乳類調査についても報告した。ネズミを捕獲するシャーマントラップや、中・大型哺乳類を撮影するため、獣道に仕掛けた自動撮影カメラによる成果を披露。多数のアカネズミやシカを確認したことなどを記載している。

発表会に携わった部員は次の皆さん（部長は除く）。

▽2年＝（長坂中出身）、（川西市立東谷中出身）
▽1年＝（北神戸中出身）、（丹南中出身）